

今年も厳しい残暑が続いています。

いちごぐみとあんずぐみ、きういぐみは、昨年度未完成だったテラスで、今年はゆっくりと水遊びができています。部屋から出てすぐに遊べる環境になったので嬉しそうにテラスに出て行っています。プール遊びについては、初めての園児や久しぶりだった園児は、始めのうちは水の冷たさに戸惑っていましたが、すぐに慣れて水に親しんでいました。今年はまだ暑さのピークが続いているような気候となっているので、プール遊びや水遊びをもうしばらく楽しもうと思います。

さて、9月の大きなめあては「思いやり」です。思いやりの心は、思いやりをたくさん受ければ受けるほど大きくなります。夏にきらきらと輝いて過ごした園児たちにたくさんの思いやりを注ぎ、保育目標の一つである「優しい子ども」を育てていきたいと思っています。



### <9月の予定>

- 9月 1日(月) シェイクアウト避難訓練
- 9月 4日(木) 滝尾中学2年生職場体験実習(～5日)
- 9月 5日(金) プール納め
- 9月 8日(月) 身体計測週間(～12日、すももぐみ、かりんぐみ、れもんぐみ)  
別府大学短期大学部初等教育科1年生、幼稚園観察実習(～12日)
- 9月16日(火) 身体計測週間(～19日、いちごぐみ、あんずぐみ、きういぐみ)  
視力検査(すももぐみ)
- 9月17日(水) 視力検査(かりんぐみ、れもんぐみ)、18日予備日
- 9月20日(土) お弁当日 🍱
- 9月25日(木) 誕生会
- 9月30日(火) 健康診断



### 保護者保育体験

8月4日(月)から8日(金)、保護者保育体験を開催しました。今年は5人の方の応募がありましたが、お子さんの体調不良ということがあり4人の方に体験していただきました。クラスの園児の前で、普段ご家庭で読んでいる絵本を読んでいただいたり、給食での配膳や片付け、そして、お昼寝準備で布団を敷いたり、たくさん体験していただきました。



お昼の休憩の準備です



みんなでお礼を言いました



絵本を読み終わって囲まれました

保育体験を通してどのようなことを楽しんでいただけたのか、感想をお寄せいただいていますので紹介いたします。

- ☆ 普段の保育参観では見られない子どもの表情や、友達との関わりなどを身近に見ることが出来て楽しかったです。
- ☆ 半日だけでしたが、子どもたちのパワーに圧倒され、1日過ごしている先生方はすごいな～と、尊

敬しかありません。

- ☆ 給食も一緒にいただいて、家で子どもが「苦手な食べ物が出たけど食べられたよ！」と報告してくることがあったのですが、これなら食べられるな〜と納得のおいしさでした！ 次回も都合が合えばまた参加させてもらいたいです！

4人の方の保育体験、ありがとうございました。

次回は、12月第1週に予定しています。たくさんのご応募お待ちしております。



### <実習について>

9月4日(木)から5日(金)、滝尾中学2年生が5人、職場体験実習で来園します。また、9月8日(月)から12日(金)、別府大学短期大学部初等教育科1年生が1人、幼稚園観察実習で5日間れもんぐみに入ります。

### <令和8年度 園児募集について>

令和8年度4月入園の「1号認定こども」の募集を9月に開始します。

周囲に対象となる方がいれば、ご紹介ください。詳しくは、ホームページおよび Instagram、Facebook をご覧ください。

### <福祉サービス相談委員会相談受付窓口について>

当法人は、第三者委員の機関である福祉サービス相談委員会を設置しています。相談事を毎日受け付けています。些細なことでも構わないので、何かあればお寄せください。相談窓口担当は、利満教頭(E-MAIL: [kidsecond@outlook.jp](mailto:kidsecond@outlook.jp))です。



## コラム 7 1 : 子どもが見る大人の世界と大人の受け止め

キッドワールド総合園長 牧野 桂一

幼い頃、「なんで大人はこんなことをいうんだろう」というような気持ちを抱いた記憶は、みなさんがもっているのではないのでしょうか。このように乳幼児期の子どもは、大人の様子をよく見ていて、そこから多くの情報を得て、大人のことを考えていますが、それだけでは、大人の世界が理解できない発達上の課題もあるのです。したがって、この年齢段階の子どもは、大人の世界をこのように見ているという子どもの世界の見方、見え方を身近で子どもと接して生活している大人である私たちは十分に理解しておかなければなりません。今回は、そのような子どもたちが見る大人の世界のことを発達心理に基づいて考えていきたいと思います。

子どもは、生まれてすぐの乳児の段階から、すでに周りの大人の様子を顔の表情や視線を意識しながら見ていてさまざまな情報を受け取っているといえます。発達心理学者であるバロン・コーエン博士は、「子どもが社会性を身につけていく過程の中でもこのような人間の顔や視線の認知が特に重要である」といいます。

そこで、最初に、子どもたちが回りの世界の視覚的な情報をどのように認識していくのかということ年齢別に確認していきたいと思います。

#### ◆ 0歳から1歳児

最初は、0歳から1歳までの乳児期の子どもです。

乳児期には周りの大人に愛され大切にされることで人間としての絆が深まり、情緒の安定や人への信頼感が育まれていきます。そして、目と目を合わせるアイコンタクトや肌と肌の触れ合うスキンシップで周りの大人の愛情を感じ取り、愛着を形成し、安心感を育てていきます。

その子どもたちが3カ月を過ぎてくると、回りの動くものに目をつけてそれを目で追いかける「追視」をするようになります。そして、他の人の視線を追って自分もそちらの方を見る「視線追従」ができるようになります。そして、人間の表情に対する興味・関心を持ち、周りの大人の視線や声、表情やジェスチャーを通じて相手の感情を読み取る能力が育ってきます。

その子どもたちが7カ月を過ぎてくると、人間の表情の理解はもっと進み、9カ月頃からは、周りの大人の考えている意図や、自分の考えている意思が少しずつ理解できるようになるといわれています。

#### ◆ 1歳から3歳児

1歳になると子どもは、新しいものや初めて見るものがあると、その安全性などを確かめるために、周りの大人などの顔の表情や身体の動きを見て確かめる「社会的参照」ということが現れてきます。つまり、周りの大人の発する情報から私たちが生きている広い世界に対する知識をつけていくため、保護者や保育者など周りの大人が外界に対して向ける表情や態度なども、子どもたちに大きな影響を与えます。

#### ◆ 3歳から5歳児

子どもたちは、生まれてから5歳頃までに、脳を中心とした神経系統の成長はだいたい80%くらいまでできあがり、6歳までには90%まで発達し、完成に近づいてきます。そして、5歳頃には、基本的な表情をしている絵を見せてみると、その絵の顔が怒っているのか、笑っているのか、悲しんでいるのかなど、絵に出ている人間の表情から感情を十分に理解できるようになってきます。したがって、物語に出てくる主人公や登場人物の気持ちなど他者の感情経験を推測する能力も育ってきて、物語を楽しく豊かに読んだり聞いたりすることができるようになります。

#### ◆ 6歳児以上の子ども

6歳を越えてくると子どもたちは、人は本当に感じている感情とは違った感情を表わすことがあるということを理解し認知できるようになるといわれています。したがって、6歳以前には見かけの表情などの外的要因が子どもの判断材料になっているので、表面的に人の感情を受け取ってしまう傾向があります。

これらの年齢特性を踏まえて、実際に子どもたちと接する際に気をつけたいポイントには、「子どもと目と目を合わせて話すこと」「子どもの目線の高さで大人が目線の高さを合わせて話すこと」「話しているときの目の表情や子どもが見ている私たちを見ていることを意識すること」「喜怒哀楽の表情が子どもに伝わるように気を配ること」「表情と感情を一致させるように配慮すること」「子どもの目に入る場所で愚痴や人の悪口は言わない」などがありますが、今回は、紙面が足りなくなりましたので、次回に詳しく説明してきたいと思います。

- \* このコラムから、「子どもは、大人のことをよく見ているなあ、とよくよく感じるがありますが、それは0歳児の頃から大人がしっかり関わってきているからそのように発達してきたのだ」と感じました。0歳から一人一人が最もよく生きることができるよう、大切に関わっていきたいと改めて感じました。

